

<p>第38号 平成23年 1月 HPに 創刊号から 連載中</p>	<h1 style="text-align: center;">もう一つの道</h1> <p>情報は、うのみにせず、注意深く徐々に試して下さい。</p>	<p>山田整骨院 熊本市出水4-25-1 096-364-7611 http://yamadasu.com/ E-mail:yamadasu@opal.ocn.ne.jp</p>
----------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

脳性小児麻痺、進行性筋萎縮症といわれた子が、一人で歩けるようになった。

ノアの方舟 檜尾太郎
昭和25年 1月号&3月号 月刊西医学

手品の種を明かせば何でもないことも、種を知らない者には摩訶不思議なのである。西医学を心得て、病気の原因が分かっている医者や、西医学範土にとっては、何でもないことも、病気の原因の分からぬ医者や一般人には、神業のように見えるものである。

第三例

大阪市此花区の五才になる女の子。昭和24年3月頃から、次第に腰が抜けた様で歩けなくなり、左手でお茶碗を持てなくなった。始めは、椅子に腰掛けていたが、その内に腰の坐りも悪くなって、じっと腰かけていることも出来なくなった。特に左半身の運動性麻痺である。大阪の某大学病院では進行性筋萎縮症と言われ、毎日のように通院してはグリコール等のアミノ酸の注射や飲薬等ももらっても、段々悪くなるばかり。京都の某大学病院でも同様の診断。

そこで、上京してT大に神経の大家O教授の診察を乞うた。「脳水腫の傾向で、足は突ばっているから、脳性小児麻痺である。現代の医学ではどうして見ようもない。」というのがO教授の言葉である。上京したついでにK大学病院、S病院で診察を受けたが、いずれも進行性筋萎縮症という病気で、原因も分からないし勿論治療の方法もないと言う。泊まっていた旅館は丁度S病院の向えて、そこのおかみさんはS病院崇拝者だったが、「まあ奥さん、S病院で診てもらって駄目なら諦めるのですね。このお嬢さんが歩けるようになったら、それこそ煎豆に花ですよ。」という、慰めだか、皮肉だか分からない言葉を聞いた母親は、涙を流して帰阪した。

或人の紹介で私は六月に始めて往診したが、左半身不随で起立することは出来ない。頭は大きくて、右に傾き、右に回転し、眼球は右へつっている。いわゆる神経性斜頸で、而も斜視である。頬には網の目のような赤い細い血管が目立つ。両足特に左足が尖足

位を呈し、足を背屈しようとするとき非常に抵抗を感じる。お腹はふくらんで堅く、臍の上部に静脈の怒張を見る。母親は肉食家で、腎臓を患ったこともあり、妊娠時は空襲の激しい時で毎日の様に防空壕へ隠れたりしていたので、先天的にも良い影響は受けていなかったかも知れぬ。

腰金魚、腹部「の」の字操作、毛管、足首の屈伸等を行うと、冷たい足が温かくなり、腹部の静脈怒張も消える。子供のくせに便秘症なので早速ミルマグを奨めたが、いやがって仲々飲まない。牛乳等に入れてだまして飲ませるのに母親は随分苦勞したようである。毎朝ミルマグを口金三、四杯飲ませ、それと時刻は別にして柿の葉煮汁をおまけにして茶のみ茶碗一杯与え、腋の下又は頭を手で支えて吊り下げ、ミカン箱に入れた砂を踏ませ、朝夕金魚、毛管等を行うだけで奇蹟が出現した。日に日に頭がよくなり、ブヨブヨした手足の筋肉も緊って来て、遂に二週間目には、手放しで立てるようになった。平床と温冷浴を奨めるが、両親はおつかながって、仲々用いようとしなかった。実行するようになってからは、めきめきと効果が現れ、斜頸や斜視も直り、西医学を知ってから一ヶ月後には一間位よちよち歩けるようになった。右足首を動かす時の抵抗はなくなったが、左足には短い間隔を置いて、周期的に伸筋の強直性痙攣があった。それも日毎に緩解し、二ヶ月後には座敷を一人で歩けるようになり、気が弱くめそめそ泣いてばかりいたのも直り、気分も朗かになった。柿の葉の煮汁が効いたのか、頬の赤い筋も大変うすくなった。こんな皮下出血が脳の中にも起こっていたのかも知れない。ただ時々風邪を引いた様な状態になり、元気がなくなり、手足も余り動かさないことが二、三日あったが、その後は目立って快くなった。これは体内に蓄積した毒素が周期的に排泄されるとか、細胞の新生が周期的に行われるため、一種の瞑眩とでも云うべきであろう。

解 説

この女の子は榎尾先生に出会って大変幸運でした。出会わなければ身体障害者として一生を過ごしたことでしょう。良くなった理由：金魚運動と腋の下又は頭支えての吊り下げで頸から腰までの脊椎の歪みを矯正し、斜頸も矯正。毛管運動で全身の血液循環を旺盛にします。ミルマグという下剤で宿便排泄。柿の葉でビタミンCを補給し、良い血管を作り内出血を防ぎます。砂を踏ませることで足の血行を良くし、脚力をつけます。平床は背骨の前後の歪みを矯正。温冷浴はお湯と冷水の交互入浴で全身の血液循環を良くし、皮膚機能の強化、自律神経を整えます。体調の悪い人は血液の流れが悪く、筋肉は冷えて硬くなります。硬くなった筋肉が骨格を歪め、不良姿勢にします。それが神経を圧迫し、神経の働きを悪くします。便秘や宿便は体にとって毒で、血液を汚し体を冷やし、又、脳の働きを悪くします。つまり、上記の方法で、姿勢、血行、筋肉、内臓、脳等が正常になったということです。山田整骨院でも同じ指導が出来ます。幼児から高校生まで、ご両親でお悩みの方は遠慮なくご相談ください。